

V 令和7年度全国大会報告

第 100 回 令和 7 年度全日本盲学校教育研究会・東京大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「これからの盲学校の在り方を描く～全日盲研 100 年目の節目に～」
- (2) 期 日 令和 7 年 7 月 31 日 (木)～8 月 1 日 (金)
- (3) 場 所 国立オリンピック記念青少年総合センター

2 内 容

(1) 全体会 (第 100 回大会記念シンポジウム)

全日本盲学校教育研究大会は第 100 回大会という大きな節目を迎える。これまで 1 世紀にわたり全国の盲学校教員が集い、各学校の実践を発表・協議する貴重な場として継続されてきた。視覚障害教育を取り巻く各分野の関係者が語り合う、参加した皆の記憶にのこるシンポジウムとなった。

シンポジスト

公益社団法人 日本眼科医会会長	白根 雅子 氏
社会福祉法人 日本視覚障害者団体連合会会長	竹下 義樹 氏
慶応義塾大学 経済学部兼大学院社会学研究科教授	中野 泰志 氏
淑徳大学 総合福祉学部教育福祉学科教授	青木 隆一 氏

コーディネーター 全国盲学校校長会会長・東京都立文京盲学校校長 安田 咲登子

(2) 分科会・研究発表 (発表者 33 名)

ア 第 1 分科会 (学習指導 1)

- (ア) 視覚障害の特性に応じた支援の考え方及び支援技術の活用
- (イ) コミュニケーション能力や表現力、思考の柔軟性を育てる指導

イ 第 2 分科会 (学習指導 2)

- (ア) 視覚障害の特性に応じた支援の考え方及び支援技術の活用
- (イ) 意欲を引き出す指導や気付きにつながる指導、教材・教具の工夫

ウ 第 3 分科会 (生活・重複)

- (ア) 自立と協働を目指し、視覚障害者の可能性を拡張するための指導
- (イ) 多様化した幼児・児童・生徒の社会参加に向けた支援の在り方

(3) 第 4 分科会 (特別支援)

- (ア) 視覚障害特別支援学校 (盲学校) における専門性の維持・向上
- (イ) 視覚障害教育におけるセンター的役割とネットワークづくり

エ 第 5 分科会 (理療)

- (ア) 理療教育における主体的・対話的で深い学び (アクティブラーニング) の実践
- (イ) 実技における第三者評価導入の取組
- (ウ) 理療教育を進めるための ICT 活用実践報告～教科指導、オンライン実践、情報共有など～

3 報 告

今年度は、本校が「ア 第 1 分科会 (学習指導 1)」での発表を行った。本校では、ICT 活用の指導において、学部を越えた教員による指導等の組織的な取組についての研究を行った。助言者のからも「他校も参考にできる研究として整理された発表である。」と講評をいただいた。「第 4 分科会 (特別支援)」では、視覚障害特別支援学校における専門性の維持・向上について報告があり、研修の在り方などについて、大変参考になった。「第 5 分科会 (理療)」では、アクティブラーニングの実践報告があり、視覚障がい配慮した指導方法について議論を深めることができた。

第59回全日本聾教育研究大会（長崎大会）

1 大会概要

- (1) 大会主題 「自ら学ぶ力を育むための聴覚障害教育の創意工夫」
～言語能力の育成を図り、思考力・判断力・表現力等を向上させるための指導・支援～
- (2) 期 日 令和7年10月16日（木）、17日（金）
- (3) 場 所 長崎県立ろう学校、出島メッセ

2 内 容

【1日目】10月16日（木）

授業公開（長崎県立ろう学校）

授業研究分科会（幼稚部、小学部、中学部、高等部、分教室）

開会式・記念講演会

【2日目】10月17日（金）

研究協議分科会

- ① 早期教育
- ② 教科指導（小学部）
- ③ 教科指導（中学部・高等部）
- ④ 寄宿舎教育
- ⑤ 自立活動（聴覚活用、発音・発語、言語指導等）
- ⑥ 自立活動（コミュニケーション、障害認識等）
- ⑦ 関係機関との連携、センター的機能
- ⑧ 重複障害教育（発達障害含む）
- ⑨ キャリア教育

閉会行事

【記念講演】

演題 「聴覚障害児の可能性を極みまで信じて」

講師 長南 浩人 氏（筑波技術大学）

3 報 告

1日目の授業研究分科会では、各学部の分科会に分かれ、指定授業についてグループごとに協議を行った。参加した分科会は小学部であったが、グループ内では、国語科の「海のいのち」という教材を取り扱った授業について、子どもたち同士がどのような手立てがあれば、話し合い活動を深めることができるだろうかという視点で活発な協議が行われた。

記念講演では、長南先生より、聴覚障害のある子どもたちの言語環境の大切さを改めて語っていただいた。名詞だけの単語の連呼ではなく、物事の関連性に関する言葉を積極的に使っていく必要があると感じた。また、聴覚障がいのある子どもたちは、知覚はするが認知が苦手であるという話をされた。思考の道筋の教師の問いでリードし、考えさせる経験を積ませることが大事であると分かった。

2日目の分科会は、第5分科会（自立活動）の運営を都城さくら聴覚支援学校と延岡しろやま支援学校の両校で協力しながら終日実施した。午前のレポート発表を基に、午後は協議を行い、全国の聴覚障がい教育に携わる先生方が、各県の現状や課題等を共有することができたようだった。

第64回全日本特別支援教育研究連盟全国大会「北海道大会」

1 大会概要

- (1) 大会主題 「特別な配慮を必要とする子供たちがその可能性を最大限に伸ばすための指導・支援及び、将来の自立と社会参加に必要な力を育成するための適切な指導・支援を目指して」
- (2) 期 日 令和7年10月23日(木)・24日(金)
- (3) 場所(会場) 全体会：カナモトホール
分科会：カナモトホール、ホテルライフオート札幌、北海道立道民活動センター

2 内 容

【大会1日目】

- (1) 開会式・表彰式
全特連功労者表彰(全国27名)：三股町立三股中学校 指導教諭 小野智弘
- (2) 研究報告：三木安正記念研究奨励賞受賞校
千葉県立特別支援学校市川大野高等学園「生徒が自ら運営する校内コンビニの奇跡」
- (3) 記念講演：演題「一人一人の良さや強みを生かした、子供主体の学びの実現
～一人一人に合った学びの場や授業作り～」
講師 広島都市学園大学 教授 竹林寺 毅 氏
- (4) 閉会式

【大会2日目】

- (1) 学校・園見学(全11校)
- (2) 分科会(全15分科会)
- | | |
|-----------------------|----------------------------------|
| ①就学進学の前・支援の在り方 | ②通常の学級における合理的配慮 |
| ③高等学校における特別支援教育 | ④通級による指導 |
| ⑤教科別の指導(小学校、小学部段階) | ⑥教科別の指導(中学校、中・高等部段階) |
| ⑦各教科等を合わせた指導(作業学習) | ⑧各教科等を合わせた指導
(日常生活の指導、生活単元学習) |
| ⑨自立活動 | ⑩キャリア教育 |
| ⑪不登校傾向の児童生徒への支援 | ⑫就労支援 |
| ⑬特別支援教育コーディネーターの役割と育成 | ⑭交流及び共同学習 |
| ⑮障がい者スポーツ・文化芸術活動 | |
- (3) 閉会行事

3 報 告

本大会の第4分会「通級による指導」で、西都市立妻北小学校の白水亜利砂教諭が発表を行った。学級担任と連携した取組について、動画を盛り込み分かりやすく紹介し、その素晴らしい内容に参加者は熱心に耳を傾け関心を寄せていた。協議においても、通級指導の難しさや悩みを共有し意見交換することで、次の取組に繋がる時間となった。

また、研究報告の「校内コンビニ」の実践は、街中で高等支援学校だからできたことではなく、考え方によっては本県の支援学校でも不可能ではないと思わせてくれる取組だった。記念講演の竹林地教授からは、子供の心の動きを思い浮かべながら行う授業は“楽しい授業”になること、子供たちの家庭生活を思いながら授業を考え、単元・授業づくりの工夫を行う大切さを再確認させてもらった。このような全国の実践に触れ、教師という職業を誇りに思うと同時に、身の引き締まる思いがした有意義な研究大会であった。

第71回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会

1 大会概要

- (1) 大会の基本テーマ 「肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進」
～ウェルビーイングの向上をめざした子ども主体の学びの充実～
- (2) 開催期間 令和7年11月19日(水)から11月21日(金)まで
- (3) 開催会場 アートホテル旭川 北海道旭川養護学校

2 内容

- (1) 役員会及び記念講演等
- ①北海道旭川養護学校学校公開パートⅠ・パートⅡ・パートⅢ
 - ②代表者研究協議会・校長会全体研究協議会
 - ③記念講演
講師：旭川市旭山動物園 統括園長 坂東 元 氏
演題：「伝えるのはいのち 繋ぐのはいのち」
 - ④文部科学省講話
講師：初等中等教育局視学官(併)特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野 和彦 氏
演題：「特別支援教育の動向と肢体不自由教育への期待」～授業づくりと子供の学びを中心に～
- (2) 第1分科会～第7分科会

分科会	内容
第1分科会	授業改善
第2分科会	学習指導Ⅰ(準ずる教育課程)
第3分科会	学習指導Ⅱ(知的代替の教育課程)
第4分科会	学習指導Ⅲ(自立活動を主とする教育課程)
第5分科会	自立活動
第6分科会	健康教育
第7分科会	情報教育・支援機器の活用
第8分科会	生活指導・寄宿舎教育
第9分科会	キャリア教育及び進路指導
第10分科会	地域との連携

- (3) ポスター発表
- (4) 教育懇談会

3 報告

旭川養護学校の学校公開では、地域の特性を活かした授業の様子を見学した。学校独自で様々な工夫を凝らした教材教具を作成されており、子どもたちの主体的な動きを活かした学習場面が多く見られ大変参考になった。

記念講演では、旭山動物園園長の貴重な話をお聞きすることができた。自分の能力を最大限使える仕掛け作りの大切さや、動物の子育ての話などを通して、改めて日々の教育実践や自分の価値観を振り返る機会となった。

文部科学省講話では、次期学習指導要領に向けた基本的な考え方について、特別支援教育に関することを中心に教えて頂いた。肢体不自由特別支援学校の授業力向上のため、教師自身も「深い学び」とは何なのか考えて日々の実践に向き合いたいと思った。

分科会では、全国の先生方と協議し、肢体不自由教育課程ならではの自立活動の課題を共有しながら、本校でも参考になる話しをお聞きすることができた。

ポスター発表では、本県代表の教諭が『自立活動の指導の充実を目指した「学級サポート」の取組について』という題でポスター発表を行った。また、分科会では本県の寄宿舎指導員が「主体的に社会で生き抜く力の育成を明日支援の工夫」～将来の実生活を見据えた生活支援の工夫～という題で、実践発表を行った。多くの先生方が聞いてくださり、様々な質問を受けた。

全体を通して、大変有意義な研修の機会となった。

第66回 全国病弱虚弱教育研究連盟研究協議会 青森大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 「児童生徒個々のニーズに応じた生きる力を育む病弱教育の在り方」
～すべての子どもたちの可能性を引き出す学びの充実～
- (2) 期 日 令和7年8月7日(木)～8月29日(金)
- (3) 場 所 オンデマンドによる動画および電子文書の配信

2 内 容

- (1) 全体会
- ① 全病連理事長あいさつ
 - ② 主管校校長あいさつ
- (2) 記念講演
- 演題 「子どもの“生きる力”を育む ～代弁のススメ～」
- 講師 新百合ヶ丘総合病院・発達神経学センター長 高橋 孝雄 氏
- (3) 特別講演
- 演題 「病弱教育のさらなる充実に向けて」
- 講師 文部科学省 初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 深草 瑞世 氏
- (4) 特別企画
- 映画上映 「障がいのある方の表現とその可能性 ～アウトプット展の取り組みを通して～」
- 講師 アウトプット展実行委員長 蒔苗 正樹 氏
- (5) 分科会

分科会名	事例発表校	指導助言者
①教科・領域の指導	大阪府立光陽支援学校 岡山県立早島支援学校	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 土屋 忠之 氏
②自立活動の指導	岐阜県立長良特別支援学校 鳥取県立鳥取養護学校	弘前大学教育学部 准教授 天海 丈久 氏
③進路指導・ キャリア教育	秋田県立秋田きらり支援学校 東京都立小平特別支援学校 武蔵分教室	弘前大学大学院 教育学研究科教職実践専攻 教授 菊地 一文 氏
④センター的役割	福島県立須賀川支援学校 奈良県立明日香養護学校	指青森県総合学校教育センター 特別支援教育課 指導主事 安藤 美幸 氏
⑤PTA	岩手県立釜石祥雲支援学校 石川県立医王特別支援学校	全国特別支援学校病弱教育校長会 元会長 相川 利江子 氏
⑥心身症・精神疾患のある 子どもの指導	山形県立山形養護学校 宮崎県立赤江まつばら支援学校	上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授 八島 猛 氏
⑦ICT活用	宮城県立拓桃支援学校 長崎県立桜が丘特別支援学校	京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 准教授 太田 容次 氏
⑧ベッドサイド教育・病院 との連携	市立札幌山の手支援学校 岩手県立盛岡となん支援学校	昭和医科大学 保健医療学部 教授 副島 賢和 氏
⑨高校生への学習指導	青森県立青森若葉養護学校 栃木県立岡本特別支援学校おおり分教室	関西学院大学 教育学部 教授 関西学院子どもセンター長 栃木県立岡本特別支援学校 丹羽 登氏

3 報 告

今大会は、web上で動画や電子文書の配信での開催となった。学校単位で申し込み、発行されたIDとパスワードの入力で、大会期間中、閲覧することができた。そのため、夏季休業中の個人研修の一環として視聴することが可能で、多くの会員が大会に参加することができた。どの講演、分科会とも多くの知見を得ることができ、大変意義深い研修となった。

第57回全国情緒障害教育研究協議会 広島大会

1 大会概要

- (1) 大会主題 『一人一人のニーズに応じた特別な教育的支援の在り方を求めて』
- (2) 期 日 令和8年2月7日(土) 10:00~16:15
- (3) 場所(会場) オンライン(ZOOMのウェビナー)及び広島県情報プラザ

2 内 容

(1) 実践紹介

「日々の対話を通して自分に合った学び方を見つける

～小学校での合理的な配慮を進め、高校へつなぐ～

広島市立牛田中学校(元瀬野川中学校コーディネーター) 教諭 近藤美帆氏

広島市立瀬野川中学校 教諭 浦東杏実氏

(2) 講演

演題: 「発達障害のある子どもの思春期・青年期の発達課題について

～小・中学校からできる逸脱行動と非行への予防と支援～

講師: 一般社団法人 日本LD学会名誉会員

一般社団法人 特別支援教育士資格認定協会S.E.N.S名誉会員 小栗正幸先生

3 報 告

本大会は、会場参加型とオンラインによるハイブリッド形式で開催された。今日、学校現場では、LD、ADHD、自閉スペクトラム症、不登校などの子どもたちに気づく力を高め、計画的かつ継続的に教育的支援を行うことが重要となっているが、主題にある「一人一人のニーズに応じた特別な教育的支援の在り方を求めて」を受けて行われた本大会は、大変学びの多い研修であった。

実践紹介は、読み書きに困難さがある二人の生徒の「学びたい」気持ちに寄り添い、生徒がもっている力を発揮するために、「主体的な学び方」を生徒自身が調整することができるように支援した報告だった。一つはAさんの支援してほしい気持ちに寄り添いながらも、他の生徒にも理解を図っていくというユニバーサルデザインに則った支援を対話によって、より学びやすい支援につなげた事例だった。実際の面談メモの紹介やコーディネーターとしての悩みなど、率直な意見があった。発表の最後に「誰かの心ない言葉に押しつぶされるような自分にはなりたくない」「自分のままでいいと胸を張って言える社会に僕は生きていきたい」「違いを抱えながら生きていける世界を、僕は信じたい」という実際の生徒からのメッセージには胸が熱くなった。

小栗正幸氏の講演では、特別支援対応のユニバーサルデザインについて「小遣い指導対応」「金銭持ち出し対応」「家庭内暴力対応」「情緒不安定への対応」を具体的な事例をあげ、詳しく説明された。また、性行動対応のユニバーサルデザインの重要性やその具体的支援方法をわかりやすく話された。指導するのではなく児童生徒との話し合いをする中から、言葉が出てくるようにすることの重要性を繰り返して話された。

最後に、一学期に一回はゲームについて話し合いの場を設けるという提案があった。「制限」を強調する話はいかぬ。そのことを念頭に置き、「ゲームを制限しているものは何か」や「ゲームの危なさ」について話し合う中で、子どもたちの考えを言語化することが大事とのことであった。

一筋縄ではいかないことばかりであるが、一人でも多くの子どもたちが過ごしやすい学校にするため、明日からの実践に生かしたい。そして、一人で抱え込まず、チームで対応し、今できることに向かい合いたいと思った。